



日進北小だより

令和8年3月2日 3月号 第12号
電話 048 (663) 1842 FAX 048 (663) 9884



<https://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標：心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する
～自分一 すてきなあいさつ 日北っ子～

児童の学校生活の様子を、
随時更新し掲載しています。
どうぞ、ご覧ください。

光り輝く春に寄せて ～ありがとうを伝える3月～

校長 寺越 崇征

『光り輝く春』で始まる日北卒業生の「門出の言葉」。卒業生たちのまっすぐで力強い呼びかけは、式場全体を何とも言えない優しい空気に変えていきます。日本の春を象徴する光景の一つといえます。

日本の学校では、4月に学年が始まり3月に終わるという制度が長く続いています。これは明治19(1886)年の「学校令」施行の頃から続くもので、日本ではすっかり定着しています。ただ、世界的に見ると4月始まりは珍しく、多くの国では9月が新学年のスタートです。そのため、日本でも9月始まりを検討する動きがあるようですが、実際に移行するとなると簡単ではありません。

Jリーグが今年から海外の基準に合わせて秋～春シーズンに移行するように、教育界でも同じように変えられればよいのですが、長年の文化や四季の感覚が深く根付いている日本では、相当な準備や労力、そしてイメージの転換が必要でしょう。寒い冬を越えて、少しずつ暖くなる春は、卒業や進級、新生活への期待が自然と高まる季節です。もしジメジメの梅雨や猛暑の真夏が卒業の季節だったら…『光り輝く夏』。どうしても、あの優しい雰囲気は想像しにくいですね。

前置きが長くなりましたが、そんな春を迎える3月、令和7年度もいよいよ最終月となりました。どの学年も、次の学年に向けて学習のまとめに取り組んでいます。この1年間で身につけたことを振り返り、新しい学年・新しいクラスで気持ちよくスタートできるよう準備する大切な時期です。残りの日々を大切に過ごし、子どもたち自身が「できるようになったこと」をしっかりと感じてくれたらと思います。

また、4月1日に急に力がつくわけではありません。今だけ頑張るのではなく、日々の積み重ねが大きな成長につながることも、子どもたちに伝えていきたいところです。

さて、3月の講話朝会では、「感謝の気持ちを伝えよう」という話をする予定です。子どもたちが成長するうえで、自分の努力はもちろん大切ですが、その背景には必ず支えてくれている誰かの存在があることを忘れてはいけません。そのことを、この節目の時期に改めて感じてほしいと思っています。また、「感謝の気持ちをもとう」ではなく「伝えよう」としているのは、思いは言葉にして相手に届いてこそ意味があるからです。

「ありがとう」という言葉の語源は、仏教の「有り難し（めったにないこと）」だと言われています。つまり「ありがとう」は「当たり前」の対義語といえます。今の生活が当たり前ではなく、多くの人の有り難い支えがあってこそ成り立っていることを、子どもたちにも感じてほしいと思います。

コロナ禍で入学早々休校になってしまった6年生から、社会性が芽生え始める1～2歳の時期に距離を取る生活を強いられた1年生まで、みんな大変な期間を経験しましたが、それぞれ立派に成長し、今では当たり前のように学校生活を送っています。「人間関係が希薄に…」という負の見方ではなく、むしろ多くの有り難い支えを受けながら、感謝の気持ちを育てて成長してきたというプラスの面を大切にしてほしいという講話にこめた願いを感じてくれたら嬉しく思います。子どもたちが「ありがとう」と伝えてくれたときには、ぜひ「こちらこそ、成長してくれてありがとう」と返してあげてください。

ちなみに、3月9日は「ありがとうの日」だそうです。3月は（それ以降も）子どもも大人も、たくさん「ありがとう」を伝え合い、日北地域全体が光り輝く温かい気持ちで満たされるといいなと思います。

私が着任してから、日進北小学校で迎える3度目の『光り輝く春』となります。コロナの5類移行からの3年間、子どもたちのよりよい成長を願い、さまざまな教育活動を工夫、改善、刷新してきました。保護者の皆様、地域の皆様には本当に多くのご支援・ご協力をいただきました。その一つ一つが、私にとっても有り難い経験でした。子どもたちも健やかに、たくましく、自分一の成長を見せてくれています。

子どもたち、そして支えてくださる全ての皆様に、心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。